



NPO 法人 京都観光文化を考える会

都草だより

第70号
 発行人：小松香織
 編集人：西野嘉一
 発行所：京都市上京区
 下立売通新町西入
 京都府庁日本館2階
 電話：075-451-8146

■ 「京都 都草のとおき」をYouTubeで公開



都草はこれまで、会員の皆様が“ともに京都を学び・語り・遊ぶ”場を共有し、京都の観光文化の一層の啓蒙と理解を深める活動を主体に取り組んできました。

都草も設立15年を経て従来の活動に加えて会員以外の人にも広く京都の魅力を発信する手段の一つとして、昨秋より取り組んだのが、京都を紹介する映像制作です。

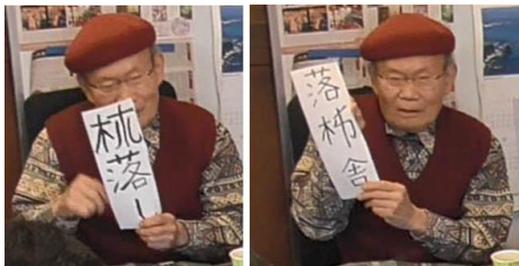
この度、その作品が完成し、「京都 都草のとおき」というタイトルで4月9日からYouTubeで一般公開しました。ホームページからもリンクしていますので、既にご覧になった方も多いたと思いますが、都草にとっても関係が深い「京都御苑」を取り上げています。

テレビでは京都を取り上げたレギュラー番組やスポットの情報番組が定期的にオンエアされ、SNS上でも京都の映像は数多く溢れています。このような中で、自他ともに認める京都通としての知識と経験を活かし、都草ならではの新たな視点で京都の魅力を掘り起こして広くアピールしようとの狙いから、「京都御苑」の映像を作りました。

この取組みは今後も継続していく予定ですが、2作目以降の内容は未定です。1作目の評価を踏まえて進めることにしていますので、ご意見・ご要望・取り上げて欲しいテーマ等をぜひお寄せください。

また映像プロジェクトでは、新たなメンバーを募集していますので、興味関心のある方は都草事務局まで気軽にお問い合わせください。(担当理事 久宗 圭 一)

■ 京都がたり茶話会(山本喜康会員を囲んで)



都草の長老、山本喜康会員を囲んで茶話会が催されました。山本会員は手描き友禅の作家で、ご自分が勉強された京都の知識をさらに広げるため、都草に入会されました。その知識の深さから、2008年にNHKBSで放送された『丸竹夷にない小路』に出演され、「路地(ろうじ) 仙人」と呼ばれました。

茶話会では、京都の間わず語り・50を超えるうんちくが披露されましたので、その中からいくつかをご紹介します。

- ・てるてる坊主は男性ですが、これの女性版が中国の伝説にあり、「掃晴娘(そうせいじょう)」という。
 - ・鉄道唱歌53番の歌詞にある「驚知らず」は、鴨川のオイカワの稚魚のことで、驚も獲らないほど小さい。
 - ・「鯨幕」葬儀の時の白黒幕、本当は黒ではなく消し炭色。シロナガスクジラの腹に似ているからで、昭和天皇崩御時に京都御所の記帳所に使われていました。
 - ・「落柿舎(らくししゃ)」の柿は間違い。活字にない文字なので現地でご確認ください。「柿(こけら)落し」も一本線ではありません。「画龍点睛」の晴の偏は日ではなく目。
 - ・おじゃみ(お手玉)、御御附(おみおつけ)、ボッカブリ(ゴキブリ)、おぼむ(火鉢の灰を明日のために始末すること)、日照雨(そばえ、狐の嫁入り)、注連縄→七五三縄(こぶができないように七本五本三本と縄をなう)。
- 都草の皆さんご存じでしょう。

山本会員は画家としても西陣・興聖寺涅槃堂の天井画「四季花卉図」40面を描かれています。ふだんは一般公開されていませんが、機会があれば拝見したいですね。(会員 高木 哲)

■歴史探訪会西部会の一言メッセージ



第95回歴史探訪会西部会「西賀茂にごたごた（元庵普寧）を訪ねる」を3月24日催しました。今回の歴探は「そうだ西賀茂を歩こう」と題して西部会が催したコースを11年ぶりに再び巡る初めての試みでした。担当会員の一言メッセージを紹介いたします。

★コロナで長い間ウォークの活動ができませんでした。久しぶりにみんなでウォークの企画をし、実行できたことは本当に楽しかったです。お天気にも恵まれ、皆様のおかげで成功裏に終わりました。（堂園光子）

★私は今年80歳になり、人生の最終レースに突入。皆さんに「ゴタゴタ」のお話が出来ましたことを喜んでおります。病と「ダマシ・ダマシ」付き合いながら、活動を続けていきたいと思っています。（吉村哲郎）

★西賀茂の地には「醍醐の森」と呼ばれる一条家の山荘跡地があることを知りました。一条恵観荘(えかんそう)と名付けられた山荘が桂離宮や修学院離宮にも引けを取らない壮大なものだったとか…京都に残っていたならば…と妄想にかられました。新しい発見があるのが歴史探訪会の一番の魅力です。（西田民子）

★歴史探訪会を担当して15年。毎回十分な説明ができず反省の繰り返しです。年と共に修正能力も減退してきました。若い人のスタッフ参画を期待しています。（高橋明俊）

★今回の歴探はコロナ禍の影響で直前まで開催が危ぶまれましたが、好天の下、開催できました。久しぶりの歴探開催、イヤホンガイドの初体験などありましたが、予定通りの2時間半で終了したことは今後の参考になると思います。（熊谷喜輝）

★「新しい発見を求めて」という副題に沿うべく羽林家の小倉家墓地と小倉事件、正伝寺とDavid Bowieの関わり、魯山人の芸術愛と家族愛のギャップなどを新しく加える事ができました。（俊藤 靖）

■歴史探訪伏見深草部会、鳥羽離宮跡を訪ねてに参加して



伏見深草部会による「鳥羽離宮跡を訪ねて」に参加させていただきました。前日に天気予報もチェック。よいお天気になりそうです。

詳しい資料もいただき、さあ出発です。竹田駅より一番近い安楽寿院南陵は多宝塔で、御陵とは思えないほど美しい。美福門院がなぜ高野山を選ばれたのか、個人的にも気になる出来事です。次の安楽寿院陵で、本御塔の卍阿弥陀様のお話を伺いました。公開される日があれば、ぜひお参りさせていただきたい仏様です。

以前、安楽寿院を訪れたのは、大河ドラマ「平清盛」放送の時。人間関係の複雑さを俳優さんを通して見ることができ、鳥羽法皇の臨終の際にも崇徳上皇は面会を許されず、悲しく帰って行ったドラマの場面がここなんだ、と思ったら歴史か現実か不思議な感覚になりました。

今回もタイムリーに、「鎌倉殿の13人」。城南宮の馬場に私はいます。後鳥羽上皇が流鏑馬と称して武者を集めているのをそっと見ている。結果を、、、なんてまた、勝手に妄想中。

暑くなりました。たくさん歩き、学びました。準備をしてくださり、楽しいトークに感謝です。

もう少し体力をつけて歩けるように、と反省しながら、また次回も参加させていただきたいと思いました。ありがとうございました。（会員 大澤 千草）